



平成31年4月12日発行 中等新報第1号
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

入学おめでとう！ ～ 新しい息吹を感じた入学式 ～



4月4日（木）、村上市長**高橋邦芳**様はじめ、37名ものご来賓の列席を得て、第18回入学式を挙行了しました。80名の新入生は、やや緊張した面持ちを見せながらも、呼名されると、元気な声で返事をしてくれました。

今回は、当日の校長式辞の抜粋を紹介します。新入生だけでなく、在校生の皆さんにもエールを送るような気持ちで書き上げたものです。



式辞

新しい生活に踏み出す皆さんに、励ましの気持ちを込めて伝えたいことがあります。それは、できるだけ早く自分なりの生活のルールを打ち立てて、安定したリズムで暮らせるようになってほしいということです。そのためには、まず今何に時間をかけなければならないのか、そのつど時間を使う際の優先順位を意識することが大切です。時間を無駄に費やさないためには、「いつまでに〇〇ができるようになる」という具体的な目標を立てなければなりません。皆さんは、小学校までの学習をとおして、「わかる」ことと「できる」ことは違うと実感したことがあると思います。これからの学校生活では、頭の中でわかったような気になっていても、実際にはうまくやれないことが今まで以上に増えるはずですよ。

何かが本当にできるようになるためには、相当の時間が必要です。目指すことができない期間、たとえ仲間追い越され、自分だけが取り残されたような気持ちに陥ったとしても、そんな自分を決して見捨てず、いつかは必ずできるようになると自らを励まし、努力を重ねていくためには、かなりの粘り強さが求められます。

このような粘り強さを支えるのは、結局は自分に対する「自信」なのだろうと思います。ここで言う「自信」とは、他人と比較して「自分の方がましだ」などという意識によるものではなく、自分自身の行動や生活の過ごし方に対する「信頼」というようなものです。まずは、毎日小さな目標を設定し、その実現に向けて頑張ってみること、今日はこのことを確実にやり遂げよう、最低でも、このことだけはできるようになろう、というふうに毎日小さな目標を掲げる。そして、一日が終わり、その小さな目標を達成できたときには、自分で自分の行動を評価する。この繰り返しによって、ささやかではあるけれど、日々「やればできる」という手応えを得ることができます。小さいけれど確かな達成感の積み重ねが自分に対するプラスの見方を生み出し、ひいてはさまざまな課題に対して前向きに取り組む「習慣」を形づくっていくのです。



次回は、新入生代表「誓いの言葉」を紹介します。



新潟県立村上中等教育学校

〒958-0031 村上市学校町6番8号 TEL.0254-52-5101 FAX.0254-53-6773

HPアドレス <http://www.murakami-ss.nein.ed.jp>